

社友会だより

第 30 号

発行 センツウ社友会
 住所 神奈川県川崎市麻生区上麻生 2-35-16
 〒215-0021 平野昌明 内
 編集者 大場省平

* 第 24 回定期総会開催 *

平成 23 年 7 月 9 日（土）12 時から、東京銀座のラフィナートに於いてセンツウ社友会第 24 回定期総会が開催されました。

本総会には、東海支部から支部を代表して奥田賢司氏が出席されました。

司会の松原理事から、第 24 回センツウ社友会定期総会を開催する旨宣言され、開催された。

始めに、平成 22 年度中にご逝去された会員 4 名の方々のお名前を読み上げ、出席者全員による黙祷を捧げご冥福をお祈り致しました。

早速、議長の選出に入り、松原理事が議長を務めることとなった。

議事に先立ち法安会長から次のとおり挨拶があった。

<法安会長の挨拶>

皆様今日は、本日梅雨が明けたそうです。今年も暑い中、遠路、足をお運び頂き有難うございます。



皆様のお元気なお姿を拝見いたしまして、大変嬉しく存じております。

今年は、東北の大震災や原発事故の問題等、未曾有の大災害に直面したわけでございますが、幸い私どもの会員の中には、大きな被害に遭われた方も居られないようございまして、良かったと安堵しております。

さて、本会の運営の現況につきましては、あまり報告することはございません。概ね順調に推移しているとお考え頂ければと思っております。「社友会だより」の他、「ホームページ」も立ち上がっており、それらをご覧頂ければ大体の動きがつかめるのではないかと考えております。最近特に、役員会の討議の中身も詳しく載せておりますので、「こんなことをやっているのだな」「こんな方向で動いているのだな」と、おわかりになられるかと思っております。これらも務めてご覧頂ければ幸いです。

役員会が充実したというか、たいへん良くなってきました。特に若い気鋭の諸君が前向きの姿勢で加わって頂き、色々な企画を練り上げては、カンカン、ガクガクの議論を進めている状況は、様変わりそのものであります。

私も会長として、こんな立派な役員会になったことについて嬉しく存じております。

こういう変化のもと、改革を図り、少しずつ安定しながら前に進んでいるのが現状であります。この状況をさらに発展させるべく私も努力して参らなければならないと存じております。会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、私の挨拶と致します。

続いて、この度、新しく支部を結成致した東海支部から参加している、奥田賢司さんご挨拶をお願いした。

<東海支部 奥田さんの挨拶>

皆様、お久しぶりで御座います。

今日は初めて社友会の総会に出席させて頂きました。

昨年は、先輩諸兄のお力により、中部支部を結成致しました。



支部設置に当たり、本田支部長から私に支部の事務局を仰せ付けられて、支部の事務局をやらせて頂いております。

中部支部は、会員数 22 名で小じんまりした支部で御座います。毎年、東海・北陸の温泉地に於いて泊りがけで懇親会を続けております。噂を聞きつけて、関東地域からも参加して頂いております。参加ご希望の方がございましたら是非お声をお掛け頂ければと思います。

これからも、より多くの会員の皆様とコンタクトを取りながら、交流の場を設けていきたいと思っております。ただ、何分にも力不足で、行き届かないことが多々御座いますので、これからも先輩諸兄のご指導ご鞭撻を頂きますよう宜しくお願い致します。

松原議長が議事に入る旨宣言し、審議に入った。

○議題

第 1 号議案 平成 22 年度活動報告及び会計報告承認の件
 平野事務局長が活動報告及び会計報告について説明し、大和田監事が会計監査報告を行い、議場に諮った結果、満場一致で承認された。

第 2 号議案 平成 23 年度活動計画案及び予算案承認の件
 平野事務局長が、活動計画案及び予算案について説明し、議場に諮った結果、満場一致で承認された。

第 3 号議案 役員改選の件

平野事務局長が、本日の総会を以て現在の役員（15 名）全員が任期を満了するので、新たに役員を選任をお願いしたい旨説明。

なお、沖本副会長、関西の村上副会長が、今総会を以て退任されますので、新たに濱田 治さん、中部支部の奥田賢司さん、阪神支部の富田 昌さんを新たに

推薦したい。なお、関西の村上副会長が退任されますので、阪神支部長として上中 健さんを阪神支部長・副会長として推薦したい旨を説明。

議場に諮った結果、満場一致で承認された。

第4号議案 東日本大震災に対する義援金の件

平野事務局長が、3月11日発生した東日本大震災、更に福島原発事故によって被災された皆様及びご家族の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

大震災発生から4カ月近く経過しておりますが、瓦礫の整理も遅々として進んでおりません。

センツウ社友会としても被災者に対し義援金を贈り支援したい旨を説明した。

義援金は、社友会の会費から10万円と、今総会会場での募集した義援金、また、各支部に依頼をし、それらを併せて贈ることとしたい。

議場に諮った結果、満場一致で承認された。

なお、義援金の贈り先については、事務局に一任願った。

以上で、議案はすべて承認を得たので、これをもって総会は終了した。なお、新たに入会された5名の方を紹介し、出席頂いている濱田 治さんが挨拶した。

<沖本さんの退任挨拶>



私は、本日を以て理事を退任いたしました。長い間、皆様のご支援ご協力を頂き誠に有難うございました。

顧みますと、平成4年から理事として社友会の運営に携わってまいりました。

当時、会社の役員から社友会で「ゴルフ」を行ったらどうかと話がありました。

これといった事業はなかったのでゴルフを社友会のイベントとして定着、本日まで約20年間、微力ではありますが、ゴルフ一筋に私のライフとして頑張ってきました。

しかし、20年間の長い歳月が流れますと時代が変わり、加齢とともにゴルフを止める方が多くなり、コンペの開催が非常に困難な状況になってまいりました。また、私も今年の7月で満80才になり、体調も悪いことから退任することと致しました。

永年、理事を務めながら何も出来ませんでした。皆様の暖かいご支援とご協力により楽しく過ごさせて頂きました。本当に有難うございました。

今後とも、社友会の発展にご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご健勝をお祈りし、簡単ですが退任の挨拶とさせていただきます。



* 総会後の懇親会 *

総会后、崎山理事の司会により、懇親会が開催された。

<櫻井さんの乾杯の挨拶>

総会にこれだけ多くの皆さんがお集り頂ける会は、立派なものです。



法安会長以下、役員メンバーも新しい体制を整えて

いい仕事をやろうとの決意に燃えておられ、益々、頑張ってくださいと思います。

今般の東日本大震災及び福島原発の放射能漏れと大変な事故が起き、復興に関心を持っています。

センツウ社友会の益々の発展と、ドコモ関連にて活躍されている皆さんが頑張ってくれることを祈念し乾杯したい。

全員で杯を挙げ、乾杯！

乾杯の後、其々がテーブルを囲み、飲んで食べて、話が弾み、1時間半があつと言う間に過ぎ去りました。



<宮崎さんの中締め>

皆さんの顔を拝見し、安心しました。

他の会合では年々人が少なくなり、残った会合は、この社友会だけで御座います。

今日の出席者は、昨年より多いとのことで安心しました。私は、この会だけは楽しみにしており、来年も出席します。

皆様のご健勝と会の発展を祈念し「万歳三唱」で締めたいと思います。



* 役員会の開催 *

- 日 時 平成 23 年 5 月 23 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 30
○場 所 東京都立産業貿易センター
(東京都港区海岸 1-7-8)
○出席者 10 名 (法安、沖本、大場、長谷川、崎山、
大和田、菅原、松本、松原、平野の各役員)

1. 議事

(1) 第 24 回定期総会の開催について

平野事務局長から第 24 回定期総会は平成 23 年 7 月 9 日 (土) 12 時から、ホテル銀座ラフィナート (旧京橋館) にて開催したいと説明、原案通り開催を決定した。

(2) 第 24 回定期総会の議題について

- ・平野事務局長から、第 24 回定期総会の議題について説明した。
- ・席上、菅原理事から、3 月 11 日に発生した「東日本大震災」に対して、センツウ社友会として義援金をさしあげてはどうかとの提案があり、審議の結果、「社友会の繰越金から 10 万円を拠出することを今定期総会にお諮りする。」こととした。また、総会当日には、会場に義援金箱設置することとした。

(3) 第 24 回定期総会資料 (案) について

平野事務局長から第 24 回定期総会への提出資料 (案) を説明した。

併せて、22 年度活動報告、支部の 22 年度活動報告及び 23 年度活動計画・予算案を説明した。

会員近況だよりは、総会出席ハガキでの近況を掲載する旨、また、会員名簿を配布する旨を説明した。結果、「東日本大震災に対する義援金の件」を追加することで、決定した。

(4) 会員宛総会開催案内について

- ・平野事務局長から、平成 23 年 5 月末に会員宛総会開催案内を発送 (郵便) したい旨、説明した。
- ・菅原理事から、「現在、会報 (社友会だより) は、年 4 回全会員に郵送しているが、今後は経費節減のため、Eメールを登録されている会員の方々には、会報を社友会ホームページでご覧頂くようにしたらどうか。なお、プリンターをお持ちの方は、郵送している会報と同じものを自宅で印刷できるようになっている。今回、総会開催案内を送付する時に、アンケートを取ってはどうか。」との提案があった。
- ・審議の結果、出席ハガキの内容を一部修正し、会報送付のアンケート依頼文を同封することに決定した。

(5) 役員改選に伴う候補者について

・平野事務局長から、現役員 15 名全員は、今定期総会を持って任期が満了するため、役員候補者を選任願いたい。また、法安会長、沖本副会長及び村上 功氏からは、今期をもって退任したいと事前に申し出されていること、本田中部支部長からは、同支部事務局長に奥田賢司氏の推薦状が提出されていることを説明した。

審議の結果、会長候補者を確定できないことから、もう 1 期、法安会長に続投をお願いすることに出席者が賛成し、本人の同意を得て、次のとおり役員候補者を決定した。

(役員候補者)

- ① 退任者以外の現職役員 (会長、副会長、理事) は再

任する。

- ② 役職変更 理事、会計担当 大和田輝彦氏 (現監事)
監事 長谷川英夫氏 (現理事・会計担当)
③ 新任理事 濱田 治氏、奥田賢司氏
④ 中央地域の副会長は、北海道・東北地域を担当する。
(退任) 沖本良平氏 (現副会長)
村上 功氏 (現副会長・阪神支部長)

(6) その他

・沖本副会長から、最近参加者が少ないので、「社友会ゴルフコンペ」を中止したいとの申し出があり、審議の結果、社友会として今後も継続して開催する。その場所・方法等は別途検討することとした。

* 役員会の開催 *

- 日 時 平成 23 年 6 月 22 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00
○場 所 (財) 東京都中小企業振興公社 秋葉原庁舎
(東京都千代田区佐久間町 1-9)
○出席者 9 名 (法安、大場、長谷川、崎山、大和田、
菅原、松原、松本、平野の各役員)

1. 議事

(1) 事務局報告事項

- ① 平野事務局長から、現在の会員数は 227 名である。平成 22 年度の会計監査は、本日会議終了後実施する予定である旨、報告。
② 長谷川理事から、先日会員に請求した平成 23 年度会費の収納率は 58% である旨、報告。

(2) 第 24 回定期総会資料について

- ① 平野事務局長から、第 24 回定期総会資料について説明した。また、出欠ハガキは 229 枚発送し 163 名を回収、49 名が出席、65 名が未回答。
会報の送付アンケートの回答状況は、「会報はメールで良い」が 78 名 (34.2%) である旨。
② 審議の結果、活動計画及び役員改選の件について記載内容を一部修正することとした。

(3) 第 24 回定期総会進行要領について

- ① 平野事務局長から第 24 回定期総会進行要領 (案) を説明した。併せて、本定期総会当日の役割分担を決定願いたい旨、また、懇親会の乾杯及び中締め等について (案) を説明した。
② 審議の結果、総会及び懇親会の進行担当を決定した。

ア. 総会司会者及び議長 松原理事

イ. 懇親会関係

- ・司会 崎山理事
- ・乾杯の音頭 当日出席の名誉顧問
- ・中締め 宮崎顧問

ウ. その他

- ・受付担当 当日出席の理事・監事
- ・領収書担当 長谷川理事
- ・撮影担当 林 稔社友会会員又は大場副会長
- ・総会資料作成 平野事務局長

(4) その他

① 総会当日は、会場内に義援金箱を設置し、義援金を募る。これらの義援金は、社友会からの拠出金 (予定) と併せて、日本赤十字社を經由して被災者にお渡しする。また、各支部にも、義援金の依頼を事務

局長からいらいます。

②「総会出席」及び「会員近況だよりへの記載」の増加を図るため、各役員が分担し会員に勧奨を図る。

③本総会に、東海及び阪神支部からの出席を要請する。

④総会当日、在京社友会役員は、開会 1 時間前までに集合する。

東日本大震災に思う

板垣 照雄さん

3月11日午後2時半頃、NHKテレビで石原都知事再出馬宣言を見て、次に国会予算委員会の質疑に移ってしばらくするとグラリと揺れがきた。二度、三度と強い揺れ、あわてて机に掴まったが、本棚からバラバラと本が落ち、納戸でも何か落ちる音がする。幸い棚は倒れることはなかったが、二、三分の長い揺れ、私の生涯で初めての激震経験であった。

地震発生から数十分後、各局のテレビ画面から目を疑うような光景が、仙台空港の滑走路に大波が押し寄せている場面、これはひどい。更に街路には住宅や車が木屑のように漂い流されていく。私は思わずテレビに向かって「ひどい、ひどい」と叫んでしまった。平成23年3月11日午後2時46分、東日本大震災の襲来であった。

その後連日のように、テレビでは瓦礫と海水の混じりあった津波が濁流のように家や畑、道路そして走っている車を呑み込む映像。新聞の写真では、どこが陸地か海かわからない泥海で船が横倒しのまま、また家の残骸がおびただしい木材に変わり、ペションこになった屋根だけが残り、道路らしき処には瓦礫と車が目茶目茶に散らばっている。一つの街が泥海となって姿を消している。「ああ、これは戦争よりひどい」と思った。

私は昭和20年初頭、神奈川県相模原の陸軍通信学校に入隊訓練中であったが、同年5月下旬、横浜大空襲の二日後に我が隊に焼け跡整理作業の命令がだされ被爆地に入った。一面の焼け野原で、電柱や電線、瓦礫が交錯していたが道路は見分けが付き、街の形だけは残っていた。この津波は街を全部さらっていった。横浜大空襲の倍のひどさである。更に、この大災害に追い討ちをかけるように福島第一原子力発電所の事故の発生、無気味かつ深刻である。あの昭和20年8月の広島、長崎の原爆の被害を思うと、爆心地から30km以上離れていた人、被爆地に数日後に入った人々が間接被爆で死亡し、また、60数年たった今でも白血病や癌を病んでいる人の状況を見ると、これからどうなるのか、国内は勿論、外国も注視しており、考えようによっては国家的危機ともいえるべきか、あのチェルノブイリ事故「1986年、ウクライナ(旧ソ連)」のチェルノブイリ原発4号炉が大爆発し、大量の放射性物質を放出した事故。」のようにならないよう何としても、これ以上の拡大を食い止めるべく専門家の全知全能で、あらゆる措置を講じて阻止することを祈るのみである。

私のような戦前、戦中派はどうしても、この大震災を66

年前の敗戦になぞらえてしまう。あの敗戦は東京をはじめ全国の主要都市を焦土とし、国際的にも孤立、衣食住に困窮してもお互いに助け合うこともできず苦しい日々であった。

今回の大地震では、これとは全く対照的に米国の効果的なトモダチ作戦、あまり日本に好意的でない中国、ロシアをはじめ百数カ国からの支援と同情、そして国内の積極的なボランティア活動、まさに3・11を境にして「時代も世界の動きも変わった」この大震災に対する国内外の暖かい心情が寄せられる時代が来たような気がする。

日本では敗戦後、その復旧への民族的努力は物凄いものがあり10年後の昭和31年に「もはや戦後ではない」という経済白書を鳩山(一郎)内閣で発表し、そして、20年後の昭和39年には東京オリンピックが開催され、完全に国の復興、驚異的な経済発展を国際的にアピールした。ただ、この頃活躍された多くの方々は現在逝去され、また相当高齢化し、現代は戦争を知らない国民(幼児で戦争の記憶なしを含め)は約7割以上といわれている。それだけにあの戦争の「しがらみ」とは切り離された清壮年、熟年の人々が我が国の主体となり、新しい発想を持って活躍する時代となっている。ただ、この戦争を知らない世代は日本のみならず世界の主要国の現象であり(中東の国内紛争国は別として)それだけに戦争との「しがらみ」を絶った世界各国の青壮年等が子の3・11を境として国際協調というか、従前からの「世界は一つ」という平和運動に貢献するという気運が盛り上がりつつあるのではなかろうか。

最近、著名な評論家が「戦争のあとは戦後であったが、現在の日本では災後がはじまった」と言った。ただ、東北人の不撓不屈さと勤勉さ、そして国内外の積極的支援を考えると「もはや災後ではない」といわれるのは五年後位ではなかろう。この頃、各テレビ局の放送で「日本の力を信じてる」と盛んに言っているが「もはや災後ではない」三陸の復興市街を一日も早く全国民の力で築き上げ、真に日本の底力を世界に誇示するよう頑張りましょう。

* 社友会ホームページ稼働中 *

皆様からのデジタル写真が多く掲載されています。

「社友会だより」は、ホームページから印刷出来ます。便利なホームページにアクセスしてみてください。

ホームページのURLは

[<http://homepage3.nifty.com/sentu/>]
パスワードは、Sentu1002(Sは大文字です。)

* 事務局からの連絡事項 *

- 総会で決議されました義援金110,181円は、8月2日に日本赤十字社宛て振り込みしました。
- 「社友会だより」メールでの送付をご希望の皆様には、10月号よりメールで通知します。

* お悔やみ *

形部幸雄 様	平成22年 5月20日	享年88歳
塩井只雄 様	平成22年 10月24日	享年83歳
富山行洋 様	平成23年 4月22日	享年45歳
中崎俊行 様	平成23年 6月25日	享年80歳

謹んでご冥福をお祈り致します。